

西宮市議会だより

Nishinomiya city assembly news



9月定例会
第153号

TOPICS

▶ 市民祭りで議会体感ツアーを開催 ▶ 高校生が市議会へ



北山山荘の紅葉(北山緑化植物園)

CONTENTS

- 9月定例会の主な内容、審議日程…………… 2
- 一般質問、12月定例会の開催予定、
高校生が市議会へ…………… 3～8
- 委員会の活動状況…………… 9～10
- 議案等審議結果一覧表…………… 11
- 議会体感ツアーを開催…………… 12

一般会計

歳入	2,104億 807万円	(12.4%減)
歳出	2,049億3,420万円	(12.9%減)

特別会計

歳入	910億8,171万円	(2.9%増)
歳出	895億9,937万円	(3.0%増)

企業会計

当年度純利益	水道事業会計	10億9,133万円
	工業用水道事業会計	9,008万円
	下水道事業会計	2億2,719万円
	病院事業会計	7億1,575万円

(カッコ内は前年度比)

令和3年度の各会計決算を認定しました。一般会計では、国が講じた特別定額給付金事業の終了により、歳入・歳出とも前年度決算額を下回っています。実質収支は、市の貯金である財政基金を取り崩すことなく51億9千万円の黒字を確保しており、その半分(26億円)は財政基金に積み立てられ、残る半分は令和4年度の財源として活用されます。

令和3年度決算

認定

9月定例会 主な内容

9月定例会の主な内容をお知らせします。全ての議案等の審議結果はP11をご覧ください。



補正予算(第4号)

可決・賛成多数

補正予算の概要

▽就学前児童・私立小中学生等

応援給付事業

物価高騰による生活への影響を緩和するため、子育て世帯への経済的支援として、市独自に就学前児童と私立小中学生等(市立小中学校のうち、学校給食費支援事業、生活支援特別給付金の対象外児童生徒を含む)を対象に、子ども1人当たり1万円分の電子マネーまたはプリペイドカードが給付されます。同時に子育てに関するアンケートを実施し、今後の子ども・子育て施策に活用されます。

▽児童館受付システム導入事業

児童館では、新型コロナウイルス感染症対策として3部制や定員制を導入していますが、利用開始時間に混雑が発生していることから、混雑回避のため、利用者カードやスマートフォンを活用した電子受付、利用申込書の電子化を図るためのシステム導入が行われます。

西宮市医療費助成条例の一部改正

乳幼児等・子ども医療費助成制度は、健康保険が適用される医療費について市が自己負担額の全部または一部を助成し、受給者の費用負担を軽減する制度です。

子育て支援、新型コロナウイルスや物価高騰による経済的支援の観点から、子ども医療費助成制度の所得制限が見直されました。

令和5年1月より、所得基準額以上の世帯の児童への医療費自己負担額の一部助成が中学3年生まで拡大されます。さらに、これまでは対象外であった高校生世代についても所得にかかわらず、医療費の助成を受けられるようになります。

条例

可決・全会一致

主な審議日程

8月	
31(水)	本会議 提案説明
9月	
6(火)	本会議 一般質問(19人)
7(水)	
8(木)	
9(金)	本会議 一般質問(1人)、質疑、委員会付託、追加議案
13(火)	常任委員会(総務、健康福祉、教育こども)
14(水)	常任委員会(民生、建設)
16(金)	本会議 委員長報告、討論、採決、提案説明、委員会付託(決算) 決算特別委員会(全体会)
26(月)	決算特別委員会(総務、健康福祉、教育こども分科会)
27(火)	決算特別委員会(総務、健康福祉、教育こども分科会) 常任委員会(教育こども)
28(水)	決算特別委員会(総務、民生、建設分科会)
29(木)	決算特別委員会(民生、建設分科会)
10月	
4(火)	決算特別委員会(全体会) 本会議 委員長報告、討論、採決(決算)

市立中央病院の跡地活用方針

令和7年度に予定している県立西宮病院と市立中央病院の統合再編により、市立中央病院は閉院となります。

病院の跡地活用に関して、民間医療機

所管事務調査(総務・健康福祉・教育こども常任委員会)

西宮市幼児教育・保育のあり方(中間報告)

西宮市の幼児教育・保育を取り巻く環境の変化への対応や課題の解決に向け、3つの仕組みづくり(質の高い幼児教育・保育の実現に向けた仕組み、多様な支援ニーズに対応し全ての子どもを守る仕組み、社会全体として中長期的に維持できる仕組み)に取り組み、いくことが報告されました。

全市的に「子ども中心の幼児教育・保育」を実現するため、学識経験者や幼児教育・保育関係者とヒアリングや協議を重ね、市の考え方が取りまとめられます。

一般質問

20人の議員が、市政に対する一般質問を行いました。質問の一部をご紹介します。



たかのしん
会派・ぜんしん

校則の見直し推進を

問 近年、人権侵害につながる校則の存在が全国で報告されている。市立中学校の校則を調査したところ、本市でも合理性を欠く規定等が見られた。生徒主体で見直しに取り組むよう教育委員会が支援するべきでは

答 校則の見直しは重要であり、各校の状況把握を進める。校則を各校のホームページで公開するとともに、体系的な支援策の提供や進捗把握に取り組む。

満池谷火葬場の受付時間延長を

問 現在、満池谷火葬場の申込受付時間は9時から17時半で、予約確定まで一晩待たされてしまう状況が発生している。火葬場の使用時間が確定しなければ葬儀等の日程を決められないため、24時間対応とすべきでは

答 24時間受付に近隣では本市だけが対応できていないため、市民サービスの向上につながるよう、WEBシステムの導入を基本に受付体制を整備する。



満池谷火葬場(奥畑)

滞納整理の強化を

問 滞納初期の働きかけを強化し、口座振替可能な金融機関を増やす等、滞納整理の具体的な取り組みを強化するべきでは

答 「標準的な債権管理事務モデル」の徹底を求めていく。口座振替等については、収納対策本部に公金収納に係る専門部会を設置し、一元的に対応する。(質問時間48分)



やの 正史
政新会

市民館の利用申請書記入の運用見直しを

問 コロナ以降、市民館の利用申込申請書を2回提出するよ

うに変わっているが、この不便を解消できないか。

答 コロナ禍でキャンセルが多く発生しているため、現在は仮予約を受け、使用が確定となった時点で本申請と使用料を徴収する運用にしているが、申し込み時の申請書記入を一度で済ませられるよう見直しを図る。

公園の藤棚による夏季の木陰の確保を

問 公園の藤棚の剪定時期について配慮できないか。

答 今年度からフジの再生に着手しており、通常は冬季に樹形を整えるが、初年度の今年は、まず日当たり、風通しを良くする環境改善が必要なため、やむを得ず夏季に強剪定を行った。今後は木陰の確保とフジの開花が期待できると考えている。



角間公園の藤棚(鳴尾町)

地域ボランティアの活動支援

問 道路や側溝、集水弁を自

主的に清掃する地域ボランティアについて、活動を支援する仕組みが改めて必要ではないか。

答 現在、自治会等の団体が行う清掃や除草作業に対して必要な用具の提供などを行っているが、より協力していただきやすい仕組みにすることが大切と考えており、さらなる道路清掃活動支援について、他市の事例などを調査、研究していく。(質問時間40分)



町田 博喜
公明党議員団

見守りホットライン事業

問 一人住まいの高齢者に対してどれだけセーフティネットが張れるのか、高齢者を見守るうえでこの事業の普及が大事と考えるが市の考えはどうか。

答 市政ニュースなどを通じて引き続き積極的な広報に努める。近年増加している携帯電話のみで生活している方も利用できるように条件の見直しを検討する。

学校図書館における学校司書の拡充

問 本市では学校司書を臨時職員として40名登録し市内の

小・中学校、支援学校の計60校を見ている。一校当たりの割り当てが一週間に一回以下となっているため学校司書の拡充を図る考えはないか聞きたい。

答 学校図書館の充実と児童生徒の読書活動推進のためには、学校司書の存在が重要だと考えており、拡充が図られるよう検討していく。

高齢者バス運賃助成事業の改善

問 この事業の対象者の方から、いまだ高齢者交通助成事業のように鉄道・タクシーの利用を望む声がある。まずは、80歳以上の方を対象にタクシーの利用を認めてはどうか。

答 要望に何らかの形で応えたいが、バスまたはタクシーを選択できる、要介護2ないし1まで広げるなど、結論を導き出せるところまで至っていない。(質問時間60分)



かみたにゆみ
政蘭会

山口中学校のモリアオガエル保存会の活動

問 昭和43年より継承されている活動、歴史は、西宮市とし

この環境学習、環境保全、生物多様性の一翼を担う活動として大変貴重である。これらの観点からも支援するべきではないかと考えるが市の考えは。

保護活動の取り組みが継続していることが重要と考えており、関係課での情報共有と連携した支援を進める。多くの方知ってもらえるようホームページ等各種媒体を通じ発信する。



モリアオガエル保存会の活動

北部地域の活性化

コロナ禍で、人々の住環境に関する価値観に変化が生じている。北部地域は程よい郊外であり、今後さらに魅力を高めるために、地域資源を活用した地域活性化について聞く。例えば生瀬地域において浄橋寺を中心とした旧宿場町の面影を残す伝統的建造物を保全することや、

国の制度である「街なみ環境整備事業」「都市再生整備計画事業」を活用して山口地区・名塩地区の街道沿いの電柱を地中化するなどの施策を実施すべきと考えるが市の考えは。

豊かな自然や歴史・文化を活かす国や県の支援制度の活用を検討、市職員と地域住民の連携、専門家の派遣や地域の活動費の助成などを通じて、北部地域の活性化を支援していく。▼その他の質問 救急搬送体制 (質問時間51分)



野口 あけみ 日本共産党 西宮市会議員団 現状と課題

住宅セーフティネット制度の

「住まいは人間としての尊厳を守る基礎であり、安心して生きる社会の基礎」という国連での宣言に日本政府も署名しており、2017年には高齢者や低所得世帯など、住宅確保要配慮者を支援する制度もスタートしている。この住宅セーフティネット制度の本市での現状と課題について聞く。

8月末時点の住宅確保要配慮者向け賃貸住宅への登録戸

数は843戸。関係団体と市が連携した民間住宅への住み替え相談の支援や居住支援勉強会を実施している。庁内の連携強化、分かりやすい情報提供、円滑な住み替え案内等に向けた研究や改善策を講じる必要がある。▼その他の質問 J R 甲子園口駅北側整備 (質問時間36分)



市長の退職金制度

石井市長は1期目の選挙時に「市長退職金制度の廃止から始まる市役所改革」を訴えていたが、制度は廃止されていない。退職金制度は廃止しないのか。

現時点で2期目の退職金について確定的な答えはないが、制度自体を廃止することはない。何かを行うかどうかは、今後の話であり今は申し上げられない。18歳以下の医療費完全無償化

18歳以下所得制限なしの医療費完全無償化について、経過措置が来年の1月から始まる

るとのことだが、「完全無償化」はいつ開始するのか。完全無償化は、任期中に目指したい。できる範囲でなるべく早く、まず前に進めるため、本定例会にこども医療費助成制度の対象を拡大する条例改正を提案したところである。

市長の過去の主張との一貫性

過去の選挙時に「首相は靖国神社に参拝すべきではない」「村山談話、河野談話を見直す必要はない」と答えているが、現在もこの考えは変わっていないのか。

どちらも平成26年の衆議院選挙時に新聞社が行った候補者向けのアンケートに対する回答だが、当時と今の考えは変わっていない。



通学路の新たな安全対策

注意喚起灯設置や横断歩道・ダイヤマーク・文マーク等のカラー化を推進すべきと考えるが市の考えは。

他市の導入実績から、取り組み状況や事例等を調査研究し、効果的な対策であることが確認された場合は公安委員会とも協議を行い、導入を検討する。

老朽化した学校施設の 内装等への補修予算

鳴尾北小学校のような古く長寿命化等の対象外の学校施設に予算を傾斜配分してはどうか。

各学校に配当する工事費は、校舎棟の築年数等を考慮し積算しているが、教育環境の差異による不公平感を軽減すべく、古い校舎の学校により配慮した配当ができるよう次年度に向け積算方法の見直しを進める。

浸水リスク地域の 古いマンホールの安全対策

浸水時にマンホール蓋が水圧等で外れ、人がはまる危険性がある。早急に実態調査・対策をすべきだが、市の考えは。

古い蓋の数量を速やかに調査し、下水管の中に高い水圧がかかる箇所や交通量の多い道路にあるなど、リスクの高い蓋から順次取り替えていくよう優先箇所の見直しを行う。▼その他の質問 防災減災、空

き家対策、住宅確保要配慮者に対する居住支援、子育て支援

(質問時間74分)



大川原 成彦
公明党議員団

学校図書館に新聞の複数紙配備を

問 文字・活字文化を守り育てるため、また価値観の多様性を学ぶため、学校図書館に新聞の複数紙配備を進めてはどうか。

答 学校図書館には新聞を配備している学校もあるが、複数紙配備は高等学校2校を除くとほとんどのないのが現状である。教育委員会としては新聞の持つ教育的価値は認識しており、授業や図書館での新聞の有効活用について研究を進めていく。

児童・生徒の漠然とした将来への不安

問 環境問題、コロナ、戦争等にさらされる児童・生徒の漠然とした将来への不安に対してどのように取り組んでいくか。

答 将来の予測が困難な状況の中、子供たちに未来を切り開き、社会を創造していく力を育成することが重要である。そのためには知徳体の調和的発達を

基に、社会や人との関わりの中で自分の生き方を考え、決定し、行動していく力や問題解決能力を身に付けることが大切である。また、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取り組みや、自然学校などの体験活動を通して達成感や自己有用感、仲間との連帯意識を育てることも重要となる。教育委員会では、子供の資質・能力を育むための教育活動を展開し、子供たちの夢を育む西宮教育を学校が推進できるように、指導・支援していく。

(質問時間56分)



よつや 薫
無所属



問 2021年「デジタル社会の形成を図るための関係法律の整備に関する法律」が成立し、各自治体は来年4月までに個人情報保護条例を「国基準」にす

ることが求められている。国は、法の目的や規範に反することがない限り、基本理念や事業者・市民の責務など独自の理念規定を設けることは妨げられないとしている。名称は国が迫る「法施行条例」に変えることなく「個人情報保護条例」とし、現行条例の基本理念を後退させることのない形にできないか。

答 改正法では、これまでの本市条例に規定していた個人情報保護の根幹部分が維持されるため後退するところはない。基本理念なども含め、改正後の条例で規定すべき事項を検討する。

(質問時間26分)



多田 裕
維新の会
西宮市議員団

特殊詐欺対策

問 本市の特殊詐欺被害は大幅に増加傾向にあり、率先して先進的な取り組みを図るべきである。特殊詐欺をめぐる最前線に立っているコンビニエンスストアに対する協力依頼や、時代に即した内容のアップデートを行うなど「協力事業者による高齢者見守り事業」をさらに活用

し、地域での見守りのネットワークを全市的に進めてはどうか。

答 「協力事業者による高齢者見守り事業」への登録を民間事業所に働きかけ、最新情報の提供等、見守りネットワークの多くの関係者に特殊詐欺への啓発に協力いただくよう取り組む。



特別支援教育

問 特別支援教育対象児の特性の傾向を把握し、児童生徒自身の生活に密着したニーズを的確に反映した本人中心の支援計画を作成するためには、特定の支援者が継続支援をすることが有効だと考える。特別支援教育において、児童生徒一人ひとりに対する適切な支援とは、どのようなものかと考えるか。

答 障害の状態や心理状態に配慮し、学習状況、発達段階等を踏まえ、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導目標・内容・方法等を明確にしながら、指導

の充実を図ることだと考える。▼その他の質問 樹木管理、職員員の定年延長

(質問時間42分)



佐藤 みち子
日本共産党
西宮市会議員団

鳴尾北小学校の教育環境

問 鳴尾北小学校の教育環境は待ったなしの課題である。直ちに改善すべきではないか。

答 今年度は照明のLED化、階段の滑り止めや床タイルの補修、保健室へのシャワー設置を計画。今後も教育環境に配慮しながら、必要な改修を行う。



鳴尾北小学校

県立高校の統廃合に関する説明

問 市内の中学生と保護者には、県教委が作成したチラシを配布しているが説明したことに



はならない。市教委として直接全市の中学校の生徒、教職員、保護者に説明すべきではないか。

問 県の公表情報を速やかに学校へ提供し、中学校等の進路指導担当者を通じて、各校の進路説明会で生徒・保護者に適切な説明がされるよう支援する。
(質問時間42分)



河崎 はじめ
市民クラブ改革
視覚障害者の転落事故への補償と安全対策

問 5月に視覚障害者が阪急門戸駅より西へ2分にある橋から川へ転落し、重傷を負った件での市の責任について問う。
答 市が管理していない道路橋のため、見舞金や休業補償等を支払うことはできないが、一般交通の用に供されている現状を踏まえ、安全対策を講じる。

甲山頂上の展望台設置

問 市南部のシンボリックな甲山。頂上に木が茂って景色が見下ろせない。頂上の充分なスペースを利用して景観を楽しめる展望台を作れないか。

答 甲山は古来より信仰の対

象とされてきた経緯から現状維持の意見があり、土地所有者の理解を得るのも難しいことから、展望台設置は困難である。



甲山山頂

国民皆歯科健診の導入と休日歯科診療事業

問 今年の骨太の方針で将来国民皆歯科健診の導入が示された。本市では休日歯科診療事業に昨年度約870万円を投じ、利用者は314名。しかし市内で日曜2軒、祝日3軒の歯科医が開業している。歯科医師会と協議の上、将来的な市民サービス制度を設計すべきではないか。

答 市内で祝日や年末年始に開院している歯科診療所が非常に少ないことから補助金交付には一定意義があるため、今後本市の歯科医師会と協議していく。
(質問時間50分)



中尾 孝夫
市民クラブ改革
下校時の立哨・校門警備

問 小学校等の立哨・校門警備は午前限定だが、文科省は殊に下校時の時間帯に警備員を置くこと等で子どもの安全確保を求めている。どう対応するのか。

答 警備の延長は費用・人員確保の課題があるため、まずは教職員や地域による見守り体制の現状を把握し、警備時間帯を学校の希望選択式にするなど契約内容の工夫により改善を図る。

北部地域での生活介護事業所の開設



問 南部地域にある重度障害者の生活介護事業所の青葉園とふれぼには71名が通所している。うち7名が北部地域からの通所で時間的にも苛酷だ。北部地域での早期開設が望まれる。

答 社会福祉協議会から北部

で事業所開設希望の相談を受けしており、施設整備に関する法的助言や補助金制度の紹介など早期開設に向けて支援していく。

指定ごみ袋制度によるごみ排出量の変化

問 指定ごみ袋制度が7月から本格実施されたが、導入2カ月間のごみ排出量はどう変化したか。

答 7、8月の排出量は、もやすごみが1万763トで前年同月比16%減、その他プラが711トで同72.2%増、ペットボトルが219トで同24.4%増。ごみ減量や分別意識の向上など一定の効果を得られた。
(質問時間55分)



ひぐち 光冬
無所属
いじめ対策の進捗と今後の取り組み

問 6月議会で深刻ないじめ重大事態を取り上げ、いじめ対策の改善を求めたが、その後の進捗とこれからの取り組みは。

答 教員のグループ研修やいじめアンケートを実施。弁護士による講演会やワークショップ、児童生徒の心理状態を分析する

システムの研究などに取り組む。あすなる学級の在り方

問 「学校復帰」から「社会的自立」へと目的が変わったあすなる学級だが、中身は変わっていない。利用者に寄り添った中身にすべきではないか。

答 児童生徒の多様なニーズに応えられるような様々なアイデアを取り入れている。今後一人一人に寄り添い、安心できる居場所となる在り方を検討する。
(質問時間26分)



あすなる学級みらい(学習室)



篠原 正寛
政新会
市内事業者の受注機会拡大を

問 市の発注で市内事業者の受注機会拡大を意識するという方向性は市長からも賛同をいただいていたが、肝心の発注部署ではその後も市内優先に逆行す



る入札や発注が行われていると言っている。財務局の見解は。
答 競争性、公正性が確保できる範囲で、市内事業者の入札参加要件の緩和と少額随意契約の市内事業者への発注を進めやすくするための環境整備を行う。



財務局の権限

問 財務局は新規事業の企画や予算編成で、他局に比べ一段上の立場からその内容を査定し判断する立場にあるのか。財務局の権限について考えを示せ。

答 健全な財政運営を図りつつ、各局の事業推進をサポートするのが役割で、財源確保の観点で査定し、各局の意向を尊重しながら予算編成を進めている。

市有地の有効活用

問 市の保有する土地の臨時貸し出し事業の実施による歳入獲得を奨励し、貸し出しやすそうな物件を選んで進めるとの答

弁を得ているが、その後の進捗について披歴されたい。

答 他市の事例研究や視察を行い、売却や貸し付けの実施体制を検討している。年内をめどに未利用地の所在地や現況をホームページ掲載し活用を進める。(質問時間67分)



ケアマネジャーの支援と地域包括支援センターの体制充実

問 介護疲れを防ぐため、ケアマネジャーや地域包括支援センターの担当者など相談窓口の充実を図るべきと考えるが、日常業務に追われ、介護者一人一人に寄り添える環境にない。市の取り組み方針は。

答 地域包括支援センターでは、介護者支援の事例検討会の実施や、ケアマネジャーからの相談に対応するとともに、段階的な専門職の増員を行っている。

各学校園の安全対策

問 教育委員会は子供たちが安心して学べるように、各学校園の安全対策の取り組み状況を把握し、適正な指導を行うべき

だが、市の考えは。

答 危機管理マニュアルの作成や日頃の訓練等による実効性のある安全管理の推進が必要と考えており、設備等に不備があれば学校と協議し改善に努める。

自宅でペットを飼う高齢者への支援

問 動物とのふれあいで癒しの効果や活動性の向上を促すアニマルセラピーを進める観点から、自宅でペットを飼育する高齢者を支援すべきだが、市の考えは。

答 動物管理センターで適正飼育や病気予防の個別相談に応じており、相談窓口の周知や啓発パンフレットの配布等について関係団体と早急に連携を図る。(質問時間44分)



健康寿命延伸におけるデータ活用

問 国の方針として、自治体

ごとにデータを活用した健康増進事業の実施を求めている。現在、本市では十分にデータを活用できているとは言えず、事業設計の甘さから、思うような効果が上がっていない。この分野では大学などの専門家の助力が必要と考える。このような中、

武庫川女子大学薬学部より、医療データを活用した「重複・多剤投薬による健康被害を減らす取り組み」を実施したいとの申し入れがあったものの協議は進んでいない。今後、市はどのように取り組む予定か。

答 データ提供には、改正個人情報保護法による可否判断や、提供方法の技術的な検討、後期高齢者医療広域連合の判断も必要となるため、課題解決を進め、データ提供に向けて取り組む。

受動喫煙防止

問 喫煙者・非喫煙者双方へのアンケートの実施により、受動喫煙防止対策が不十分であることが明らかになった。前回要望した塩瀬・山口支所の喫煙所廃止と本庁屋上と北側の喫煙所の今後の予定はどのようなになっているか。

答 本庁舎の喫煙所は閉鎖している。喫煙所に適した場所がないため再開のめどはたっていない。児童センター併設の塩瀬・山口支所は喫煙所を廃止した。(質問時間75分)



フリースクール等や保護者への経済的支援

問 フリースクール等の事業者、またそこに通う児童生徒の家庭への経済的負担が大きく、通いたくても通えない子どももいる。社会的自立に向けて経済的支援が必要だと考えるがいかがか。

答 あすなる学級の充実やオンライン支援などの強化に努める。民間施設等や保護者に対する支援は現在検討していないが、今後も国の動向を注視していく。

学校給食費支援事業における不登校児童生徒への対応

問 令和5年3月まで公立小

中学校の給食費が免除される議案が上がっているが、不登校児童生徒への対応はあるのか。

不登校等で給食を喫食しない児童生徒は対象とならないことから、「就学前児童・私立小中学生等応援給付事業」の対象者に含め、支援を行いたい。

特別貸付の返済に関する相談場所や事務の流れ

コロナ禍での特別貸付金は全国で1兆3500億円に上る。来年1月から始まる返済に際して兵庫県社会福祉協議会の所管となることであるが、今後の相談場所や返済事務の流れの説明を求めらる。



菅野 雅一 会派・ぜんしん

18歳までの医療費無償化を見送った理由は

石井市長は3月の市長選挙の公約として「18歳までの医療費を所得制限なしで無償化し、

子育て世帯を支えます」と約束した。しかし、9月定例会に提出された議案では、自己負担が必要な層が存在しており、18歳までの医療費無償化は見送られた。なぜ見送ったのか。いつ実現するのか。無償化で新たに必要になる財源の手当ては。

財政状況などに鑑み、まずは早い段階で、全く助成を受けられない子供たちに支援を行いたいと考え、今回の提案となった。任期内の完全無償化を目指す。財源の手当てについては全体のマネジメントの中で捻出していきたい。

名湾線事業で立体道路制度の検討を

国は名神湾岸連絡線の想定ルートの土地所有者らに用地補償の手続きを早急に提示すべきだ。想定ルートにある事業所は移転する必要がある場合、代替地の提供を求めているが、適当な代替地が見当たらない。道路の上下空間での建築物などの建築を可能とする立体道路制度を検討してはどうか。

国に対して事業の詳細スケジュールの提示を求めていく。代替地の確保について国・県と

協力し検討する。立体道路制度については制度の趣旨を踏まえた慎重な判断が必要と考える。



江良 健太郎 維新の会 西宮市議員

卒業式の開催方法

コロナの感染状況にもよるが、卒業式等を2部制にすることで多くの家庭が参加できる。児童や保護者にアンケートを取り今後の対応を考えるべきだ。

保護者等にコロナ禍の式の在り方に思いがあると感じるが、学校ではさまざまな状況を踏まえ決定するためアンケートで問うことは適さないと考える。

生活困窮者への支援体制

生活困窮者等はさまざまな問題を抱えていることが想定され、納税部門で発見した際に全庁的に支援していく体制が必要だと考えるがどうか。

税や保険料等の窓口で相談があれば、支援窓口を案内するなど支援が途切れないよう取り組んでいる。今後も庁内連携を図り支援体制づくりを進める。

SNSでの市長のコメント

3月定例会で本市の選挙投票済証を他市に倣い、デザインを考えるべきと提言したにもかかわらず、SNSで市長は考えたこともなかったとコメントした。議会軽視であり、なぜそのような発言をしたのか。

発信が一部適切でなかったことをお詫びする。質問が市長選挙直前だったため、一線を引いた感覚があったが、改めてデザイン公募を促してみたい。

その他の質問 迷惑客引き

(質問時間49分)

高校生が市議会へ

市立西宮高等学校(特色選抜入学)の1年生40人が市議会を訪問し、議会の仕組みや役割を学びました(感染症対策のため、2グループに分かれて実施)。生徒たちは本会議場の議員席に座り、議員がプロジェクターを使って、クイズも交えながら分かりやすく説明しました。はじめは緊張して遠慮がちだった生徒たちも最後には積極的に挙手して議員に質問をしていました。(7月15日)



12月定例会の開催予定

12月						11月
20(火)	19(月)	15(木)	14(水)	13(火)	9(金)	30(水)
予備日	本会議 採決など		常任委員会		本会議 一般質問、質疑 委員会付託など	本会議 提案説明など

開催予定時刻は10時です。日程は変更される場合があります。お問い合わせ：議会事務局議事調査課 079(8)353378

委員会の活動状況



総務 常任委員会

山田ますと^長 江良健太郎^副
大石 伸雄 川村よしと
澁谷 祐介 中尾 孝夫
野口あけみ 松山かつり

本年度施策研究テーマ「総合計画について」

地方自治法の改正で総合計画は策定の義務付けが撤廃され自治体の主体的取り組みに委ねられました。本市では、義務付けが撤廃された後も本市不変のビジョン、文教住宅都市・西宮を未来に引き継ぐとともに、今の時代でどう具現化するかを明示する必要から総合計画（基本構想、基本計画、実施計画）を策定し、市の最上位計画に位置付けています。

一方、国から自治体に策定を義務付けられた計画として数多くの部門別計画等があります。

総合計画と部門別計画等と重複する内容がある反面、計画期間、計画範囲、策定年度の違いもあり、総合計画の在り方を考える上で、一定整理ができればと考えます。

また、近年、総合計画そのものの在り方について市民等との協働による行政運営の重要性が指摘されている観点から、これまでの市役所中心の行政計画から市民、地域等にも関わる公共計画へ位置付ける自治体も出てきました。委員会では、第6次西宮市総合計画（2029年）にどういう性格を持たせるのか、文教住宅都市・西宮が目指すまちづくりを広く市民に伝わる総合計画とするためにはどのような内容にすればいいのか、また、現在10年としている計画期間や議決対象についても策定の意義や果たすべき役割を確認しつつ真摯な議論を深め提言内容に纏めてまいります。



民生 常任委員会

松田 茂^長 河本 圭司^副
大原 智 河崎はじめ
ひぐち光冬 福井 浄
八木米太郎 よつや 薫

本委員会の令和4年度の施策研究テーマを、「ゼロカーボンシティに向けた取組について」に決定いたしました。

令和3年2月に石井市長が「2050年ゼロカーボンシティ」を表明されました。ゼロカーボンシティになるためには、二酸化炭素(CO₂)の排出量実質ゼロを目指して、再生可能エネルギーを活用する等、環境へ悪い影響を与えないこと。そして、快適な生活を維持しなければなりません。

本委員会では、CO₂排出量を抑える公共施設や省エネ設備等の「モノ」に着眼し、ZEB

常任委員会は、市の事務の調査や、議案・請願の審査のために設置されている常設の委員会です。西宮市議会には5つの常任委員会があり、議長以外の全議員がいずれかに所属しています。今号では「施策研究テーマ」について掲載します。(記事は10月27日時点)

長 〓委員長 副 〓副委員長

(ネット・ゼロ・エネルギービル：快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物)、また小水力発電による電力調達について、調査研究を行い提言します。

行政におけるゼロカーボンシティに向けての取り組みが、市民に対して、しっかりと伝わるようにしなければなりません。

そのためにも公共施設や設備等が、環境に配慮した「モノ」に変わっていく過程やCO₂排出量が減っている状況を市民とともに確認することが大切です。

環境学習都市宣言から20年の佳節を迎えます。

(環境学習都市宣言より抜粋)

「西宮の環境を、そして地球の未来を次世代に持続可能な状態で引き継いでいくためには、私たち一人ひとりが社会のありかたやくらしを見直さなければなりません。」



健康福祉 常任委員会

八代 毅利^長 田中あきよ^副
岩下 彰 うえたあつし
かみたけみ 菅野 雅一
町田 博喜 脇田のりかず

本委員会の施策研究テーマを7月に「認知症と地域共生について」と決定し調査研究しております。

令和7年には65歳以上の5人に1人約700万人が認知症になるとされており、本市でも認知症の人が増加するものと思われまます。国は平成27年初の国家戦略「新オレンジプラン」を策定し、令和元年に認知症施策推進大綱を閣議決定し、「共生と予防」を車の両輪として施策を推進しています。その際の「予防」とは認知症にならないということではなく、「認知症になるのを遅らせる・認知症になっても進行を緩やかにする」



という意味です。
■認知症と地域共生について
 予防、権利擁護、家族支援を小項目として調査研究します。

本市の取り組みを把握するために管内視察や勉強会・当事者との意見交換等を行います。さらにより良い施策を進めるために東京都足立区・町田市・神奈川県大和市・三重県伊賀市・神戸市等を管外視察し調査研究してまいります。予防については、新オレンジプランにより認知症カフェや認知症初期集中支援チームの全市町村への設置が推進されています。その効果や課題について調査研究します。権利擁護については成年後見等について効果や課題を調査研究します。家族支援については認知症介護者の会等との意見交換会等を通して当事者の意見をお聞きした上で先進事例を参考にし認知症賠償保険制度等も含め本市への提言に繋げてまいります。

**教育こども
常任委員会**

- 一色 風子^長 大迫純司^副
- 大川原成彦 佐藤みち子
- 篠原 正寛 多田 裕
- 田中 正剛 宮本けいこ

本委員会の令和4年度(2022年度)の施策研究テーマは、こども支援局所管分で「**保育所整備の将来像と今後求められる保育所のあり方について**」、教育委員会所管分で「**学校支援について**」**「応答的な関わりができる環境づくり」**の2項目に決定し調査研究を進めています。また、施策研究テーマ以外にも必要に応じて所管に関わる課題に目を向け市内団体や現場の声、市民の声を聴きながら所管事務の調査研究を進めていきます。

■施策研究テーマ
「保育所整備の将来像と今後求められる保育所のあり方について」

「**い**」本市の大きな課題のひとつである待機児童対策については本市も様々な手法で進めてきています。一番重要な視点として子どもたちの生活の場である保育所をただ預けるだけの場所ということにとらわれず、本市の子育て環境にとってより良い場となるような保育所整備の在り方を、将来を見据えながら進めていくよう考えていきます。

「**学校支援について**」**「応答的な関わりができる環境づくり」**学校現場では子どもたちの不登校やいじめの問題など待ったなしの課題が山積しています。教職員の負担軽減を進めることで、教員としての本来業務に充て、さらに教育現場で重要な子どもたちとの関わりを大切にすることを「**応答的な関わり**」とテーマに位置付け一人一人の子どもたちの言葉に耳を傾けることができる環境づくりを目指すよう提言していきます。

**建設
常任委員会**

- たかのしん^長 坂本 龍佑^副
- 草加 智清 花岡ゆたか
- まつお正秀 やの 正史
- 山口 英治 吉井 竜二

当委員会は都市局・土木局・上下水道局を所管し、インフラ整備やまちづくり等の分野を担当しています。私たちの暮らしを守り支える重大な役割はもちろん、公園や街並みの緑化といった日々の生活にうるおいを与える施策まで、取り扱う内容は多岐にわたります。議案審査や所管事務調査を通じて市当局と対峙し、有意義な議論・提言に努めてまいります。

■施策研究テーマ
 本年度の建設常任委員会は、独自で調査・研究を行う施策研究テーマに「**市営住宅のあり方について**」を選びました。

本市は令和4年4月1日時点で9122戸の市営住宅を管理しています。人口あたりの戸数を比較すると中核市平均の約2倍にのぼり、過大な水準であることが指摘されています。また、本市が保有する建築系公共施設の床面積のうち、市営住宅は最も多い約4割を占めています。

厳しい財政状況を背景に、公共施設の維持・更新費用を適正化するための「**公共施設マネジメント**」が全庁的に推進されており、市営住宅の総量縮減は避けては通れないテーマです。一方で、生活困窮者に対して住まいを提供することは行政の重大な責務であり、福祉的な観点からは欠かせません。また、入居者の高齢化等に伴う管理面での問題も増加しています。

市営住宅の在り方については多角的な検討が求められます。各委員の多様な視点を活かしながら、研究を深めてまいります。

常任委員会に関する各種情報はこちらをご覧ください。



議案等審議結果一覧表

(令和4年9月定例会)

全会一致で可決等されたもの

Table with 7 rows and 2 columns. Rows include: 決算 (令和3年度決算), 予算 (令和4年度補正予算), 条例 (一部改正), 一般案件, 報告, 人事.

表決態度が分かれたもの

(○賛成、×反対)

Large table with 12 columns (Party names) and 3 rows (Cases). Columns include: 会派名等, 公明党議員団, 政新会, 会派・ぜんしん, 市民クラブ改革, 維新の会西宮市議団, 政蘭会, 日本共産党西宮市会議員団, 無所属. Rows include: 議員名, 案件名, 令和3年度, 令和4年度補正予算.

※採決結果の○は、提出された議案等に対して賛成多数で可決・認定されたことを示しています。なお、人事案件の場合は同意、報告などの場合は承認されたことを示しています。

Informational section with three columns: 一党派 (Party), 会派の解散 (Party Disbandment), 委員の辞任・選任 (Committee Resignation/Election). Includes dates like 10月18日付 and details of council actions.

お知らせ (Notice)

第47回にしのみや市民祭り

3年ぶり！ 議会体感ツアーを開催

本会議場が沢山の活気であふれました



西宮市議会は、にしのみや市民祭り（10月22日）で3年ぶり5回目となる「議会体感ツアー」を開催。マスク着用やアルコール消毒など感染症対策を行った上で、正午から全5回実施し、計211人の方にご参加いただきました。参加された皆さんは議員席に座り、議員からの市議会の説明を受け、クイズも交えて楽しく学びました。今後も、皆さんが議会を身近に感じられるよう取り組んでいきます。

議会体感ツアーの流れ



① 議会棟前で受付



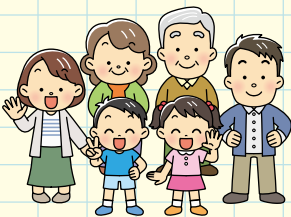
② 議員が議会棟を案内



③ 本会議場で市議会の仕組みについて説明 & クイズ



④ 記念品(ボールペン)をプレゼント



参加者のコメント (アンケート)

- ・ 通常議員が座っているところに座って気分を味わえたのがよかった。(10歳未満)
- ・ 市議会を身近に感じるとても良い企画でした。(20代)
- ・ 子どもが市政に興味を持つきっかけになった。(40代)
- ・ ごみ処理の費用などを考えるきっかけになるクイズもあり、とても良かったです。(50代)
- ・ 議員さんとのトークがとても楽しかったです。(70代)

議会体感ツアー実行委員会 (広報委員) から一言

- ・ 沢山のご来場、ありがとうございました。3年ぶりの現地での開催となりましたが、多くの方にご参加いただき、今後も継続して欲しいとの声もいただきました。
- ・ 議会の雰囲気や仕組みを体験でき、議会の仕組みを皆さんに理解してもらえよう今後も工夫していきます。

